

曲物の技術

岩井 宏實

-
- | | |
|-------------|---------|
| はじめに | 4 金木の曲物 |
| 1 曲物の祖型 | 5 川内の曲物 |
| 2 曲物制作の基本技術 | おわりに |
| 3 奈良井の曲物 | |
-

論文要旨

曲物は剣物に次いで古くから日常生活に使用されてきた木製容器である。その用途はきわめて広く、衣・食・住から生業・運搬はもちろんのこと、人生儀礼から信仰生活にまでおよび、生活全般にわたって多用してきた。また、鎌倉時代後期から室町時代初期に、樽を円筒形に並べて箍で締め、底板をはめこんだ結物の桶が生まれるまで、オケといえばもっぱら曲物で、オケの語源も曲物の苧桶からきている。それは曲物が剣物より容量の多い容器を、比較的容易に作れるからであった。

その製法は一見複雑に見えるが、木目をうまく利用すると、基本的には鉛と銛と目通の3丁の道具で作ることができる。もちろんすぐれた技と勘と骨が必要である。今日においても随所で曲物が製作され、また一時プラスチックに押されて衰退したが、再生復活しているところもある。それらの中には板挽機械など近代機器を使用しているところも多い。しかし、なお伝統的な道具をもって製作しているところも何か所か見られる。

そうした例として長野県木曽郡檜川村奈良井、青森県北津軽郡金木町、青森県下北郡川内町の曲物製作について、細部にわたる製作工程は省略するが、要所の技術の要諦と道具の使い方を紹介し、曲物の技術の伝統的な手法を再考し、技術の進歩が逆に技能を退化させ、製品そのものが粗雑になる点に注目したい。